



Authoring Studio II

ご使用の手引き [v9.0]

(基本編－2)



テキスト・アンド・グラフィクス 株式会社

< 目次 >

1. 住所データからの郵政バーコード自動生成	1
(1) データ抽出モード	
(2) 郵政 DB 検索モード	
2. 表形式レイアウトの作成	3
(1) 表オブジェクトの設定	
(2) 表オブジェクトへの可変データ設定	
3. 複数ページ帳票の作成	7
(1) レイアウトページの追加	
(2) 追加したページへの可変データ設定	
4. 条件判定でのページ切替	11

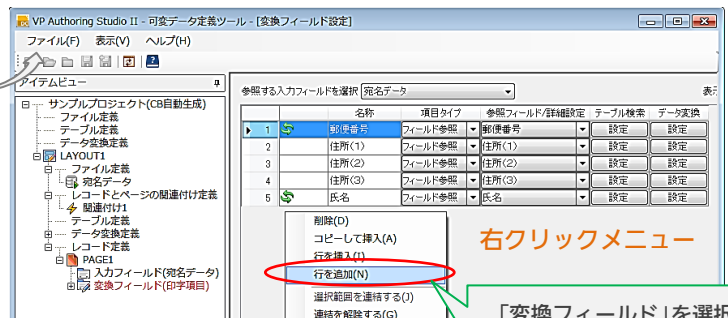
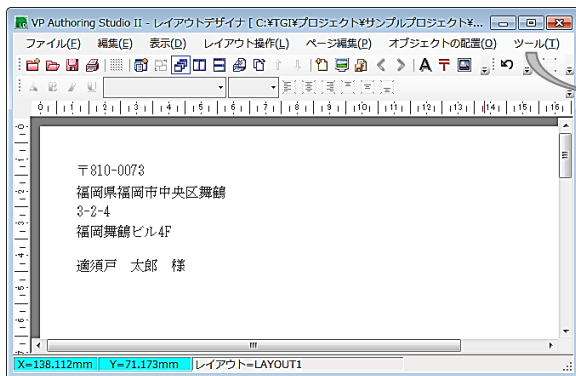
1. 住所データからの郵便バーコード自動生成

※この機能は「体験版」では使用できません

ここでは、住所データから郵便バーコード（カスタマバーコード）を自動生成する方法について説明します。VPAS2 では、郵便バーコードを自動生成する方法として、以下の2つの方法があります。

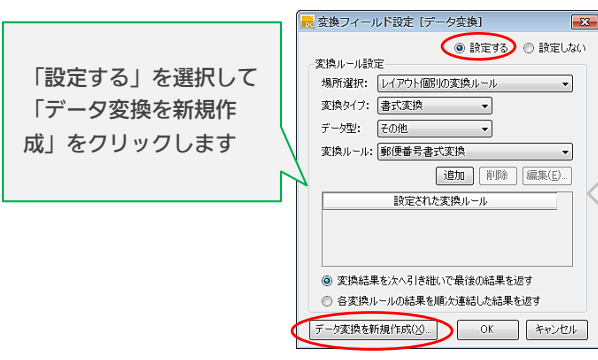
- ・データ抽出モード：郵便番号データと複数の住所データから有効な住所表示データを抽出してバーコードを生成します
- ・郵便 DB 検索モード：郵便 HP データを元に作成された専用データベースを使用して住所を検索してバーコードを生成します

郵便バーコードの生成は「可変データ定義ツール」の「変換ルール」として機能します。以下のような宛名に郵便バーコードを追加してみます。

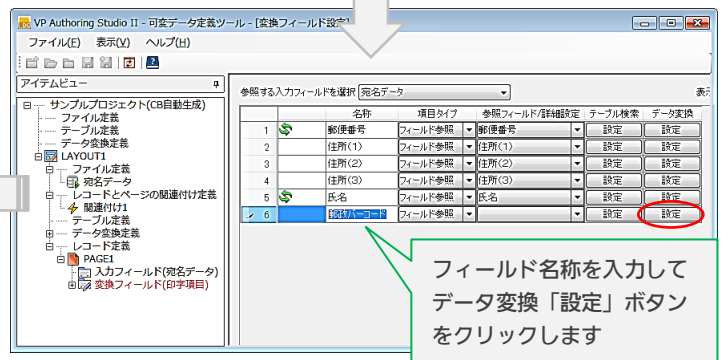


右クリックメニュー

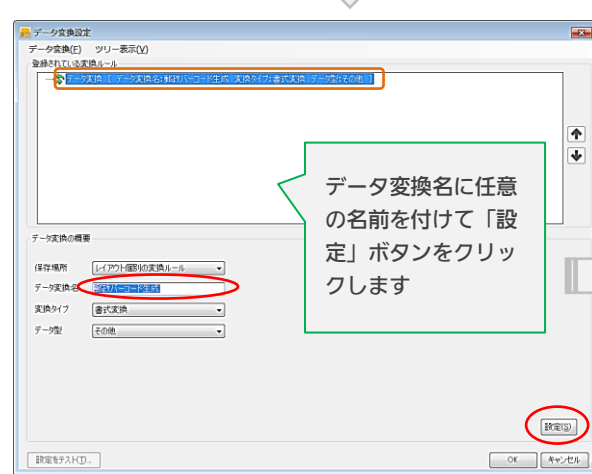
「変換フィールド」を選択して右クリックで行を追加します



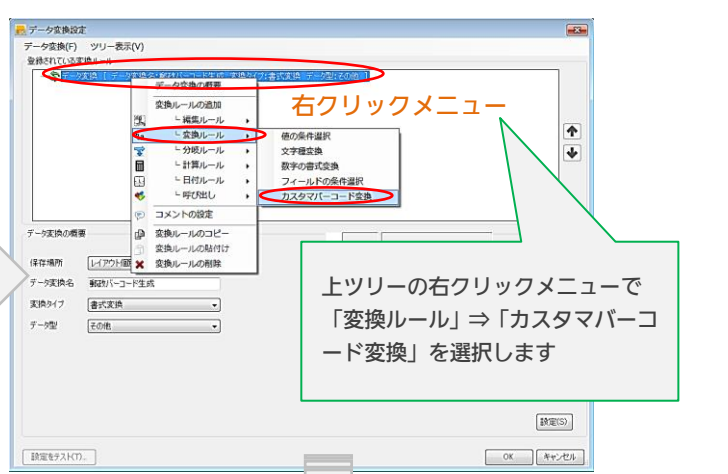
「設定する」を選択して「データ変換を新規作成」をクリックします



フィールド名称を入力してデータ変換「設定」ボタンをクリックします



データ変換名に任意の名前を付けて「設定」ボタンをクリックします



上ツリーの右クリックメニューで「変換ルール」⇒「カスタマバーコード変換」を選択します

次のページへ

(1) データ抽出モード

郵便番号データと複数の住所データから有効な住所表示データを抽出してバーコードを生成します

「自動生成」を選択して郵便番号フィールドと住所フィールドを選択します
 ※ここで選択できるフィールドは「変換フィールド」の項目ではなく「入力フィールド」に格納された項目です。入力フィールドに設定されていない場合は選択できません

変換ルールをテスト

テスト結果を確認して「設定」ボタンをクリック

郵便バーコードとして有効な住所表示データのみを抽出してバーコードデータを生成します

※詳細の設定方法についてはメニュー<ヘルプ>をご覧ください

(2) 郵政 DB 検索モード

郵政 HP データを元に作成された専用データベースを使用して住所を検索してバーコードを生成します

変換ルールをテスト

テスト結果を確認して「設定」ボタンをクリック

テスト結果「正常」

テスト結果「異常」
 福岡市台東区は郵政 DB データとは不一致

※詳細の設定方法についてはメニュー<ヘルプ>をご覧ください

設定が完了したら [OK] ボタンをクリックすると変換フィールドの設定画面に戻ります。作成された変換ルール「郵政バーコード生成」を追加して [OK] ボタンをクリックすると変換フィールドの設定画面に参照されたフィールドが表示されます。レイアウト側で「カスタマバーコード」オブジェクトを追加して、この「郵政バーコード」項目を割り当てれば使用できます。

2. 表形式レイアウトの作成

ここでは、表形式レイアウトの作成方法について説明します。VPAS2では、繰り返しデータの一括レイアウト方法として「表」オブジェクトが使用できます。表オブジェクトを使用することにより、一覧形式のレイアウト、また Excel のようなセル形式のレイアウトを簡単に作成することができます。

(1) 表オブジェクトの設定

以下の宛名のためのレイアウトに「表」オブジェクトを追加してみます。

「表形式オブジェクト」を選択します

マウスで表に設定する矩形を指定します (領域は設定後に変更できますので適当でもOKです)

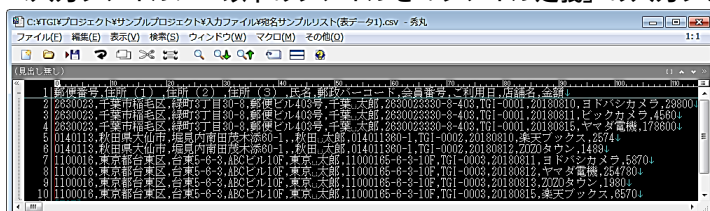
表オブジェクトが追加されたらセルの境界線をプレ印刷の罫線に合うように微調整します。また金額は右詰めに配置を調整します

矩形領域を選択してマウスボタンを離すと指定画面が表示されます。列数と行数を指定して [OK] ボタンをクリックします

(2) 表オブジェクトへの可変データ設定

次に「可変データ定義ツール」で表オブジェクトに印字するデータ項目を追加します。入力ファイルとしては、以下のような1人が複数レコードで構成され、前方に宛名データ、後方の3項目に表データが格納されている形式のファイルを使用します。VPAS2ではこのようなレコード形式のファイルの場合、先頭レコードの前方部を宛名データとして使用して、後方の3項目を表データとして複数行に展開する動作を行います。

<入力ファイル> 以下のファイルを「ファイル定義」の入力ファイルとして設定しておきます。



(a) 入力フィールドの追加

設定をテスト

右クリックメニューで「行を追加」

宛名項目の下に表形式で印字する3項目を追加します

追加した項目が表示されます

(b) 変換フィールドの追加

設定をテスト

右クリックメニューで「行を追加」

宛名項目の下に表形式で印字する3項目を追加して、既に追加されている入力フィールドを参照設定します。「ご利用日」は西暦⇒和暦変換、「金額」はカンマ挿入と¥記号が付加される変換ルールが設定されています

追加した項目が表示されます。「ご利用日」は和暦変換され「金額」は通貨書式になっています

(c) 「関連付け」動作の変更

次に「関連付け」動作の変更を行います。VPAS2には入力データを読み取る際の動作条件やループ処理などを設定する仕組みがあります。通常の単ページ帳票では、ページ作成時に初期設定の状態で作成された「関連付け」動作をそのまま使用できることが殆どですが、入力ファイルの項目データ条件によりレコードの読み方を変える場合や複数のページを切り替えて印字する場合は、この「関連付け」動作の設定変更が必要になります。

ここでは、入力ファイルの「会員番号」が切り替わった時点で1人分を1ページで印刷する「関連付け」動作に変更して表部分の印字を行うように設定してみます。

左ツリーの「関連付け1」を選択します。右ツリーには初期設定で作成された関連付けが表示されますので、最上部を選択して右クリックで、上記の「読出し条件」を選択します。

次のページへ

繰り返し条件を判定する「入力フィールド(宛名データ)」の「会員番号」フィールドを選択します。判定条件として「値が変換したか」を選択し会員番号が切り替わったら繰り返しを抜ける動作を設定します。設定が終わったら「設定」ボタンをクリックします。

読み取り動作タグの設定が終了したら、この繰り返し動作にもとづいた「入力データ読み取り」「変換フィールド格納」「ページ出力」の動作になるように既存の動作設定タグを移動させます。タグの移動は画面右の[▲][▼]ボタンをクリックすることにより行います。関連付け動作では「変換ルール」の構築と同じように、繰り返しループや条件判定の条件内で実行されるタグは条件タグの内側へインデントして設定する必要があります。

今回は以下のようにタグを移動させます。

「読み込み」タグが繰り返し条件タグの中にインデントされました

「書き込み」タグが繰り返し条件タグの中にインデントされました

「ページ出力」タグは1人分のデータが処理されて繰り返しを抜けた後に処理されますので、繰り返し条件の中にはインデントしません

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックし「設定をテスト」で繰り返し条件通りに入力データが処理されるかを確認します。

3人分の繰り返しが表示されています

表データ部分には3件のデータ表示されています

(d) 「表」オブジェクトへの可変データ割り当て

「可変データ定義ツール」での設定追加が終了したら、これらの項目をレイアウトへ追加された「表」オブジェクトに割り当てます。

「入力データ設定」タブを選択して、繰り返しセル（今回の場合は1-1~1-3）をマウスで選択状態にして「繰り返しセル設定」ボタンをクリックします。繰り返し回数に[4]が設定されます。その後に「入力データ割り当て」ボタンをクリックしてください。入力データ割り当てが終了したら「OK」ボタンで画面を閉じます

それぞれの表項目に対して、追加した各変換フィールドを割り当ててください

(e) 印刷プレビューでの確認

全ての設定が終了したら印刷プレビューで内容を確認してください。以下のように3人分、3ページの印字結果になります。

配列化された可変データの参照方法について

VPAS2では、可変データが配列状態となっている場合、「表」オブジェクト以外のオブジェクトの初期設定状態では、配列要素の先頭のデータのみを参照するしくみになっています。但しこの初期設定は変更可能であり、配列の任意の要素番号を指定して可変データを取り出すこともできます。

3. 複数ページ帳票の作成

VPAS2 では、複数ページ帳票の構築が可能です。表裏ハガキや鑑+複数明細ページのマルチページものなど、どのようなページ構成の帳票でも構築することができます。ここでは、前述(2.)のサンプルを流用して宛名と利用明細を2頁に出力する方法を説明します。入力ファイルは前述(2.)のサンプルと同じものを使用します。

(1) レイアウトページの追加

以下のような宛名だけのレイアウトに利用明細ページを追加して2ページ構成に変更します。

「新しいページの追加」
を選択

用紙サイズ等を設定して背景画像を選択

2ページを一括表示に変更

前述のサンプルと同じ要領で「表」オブジェクトを設定します

(2) 追加したページへの可変データ設定

次に「可変データ定義ツール」で追加されたページのデータ処理を設定します。左側のツリーには以下のように追加されたページのレコード情報が自動生成されています。また「関連付け」動作にも追加ページ分が自動生成されています。これらの情報をこのサンプルの動作に合わせて編集します。

今回のサンプルでは2ページを一括で出力しますので動作設定は1つのみでOKです。追加された動作設定は削除します。

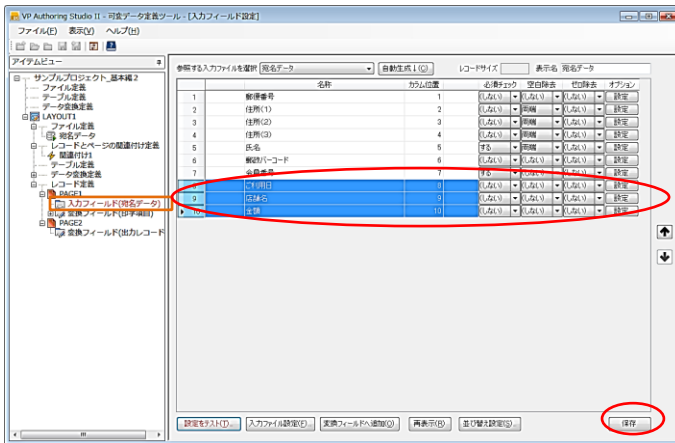
今回のサンプルでは入力フィールドは既存の宛名ページのものを使用しますので、追加されたページの入力フィールドは削除しておきます。

それぞれを右クリックメニュー「削除」で削除します。
※設定を削除する場合、その設定が何らか他の設定で参照されている場合には削除できません。この場合は「動作設定2」において追加された入力フィールドが参照されていますので、先に「動作設定2」を削除してから入力フィールドを削除します。

削除!

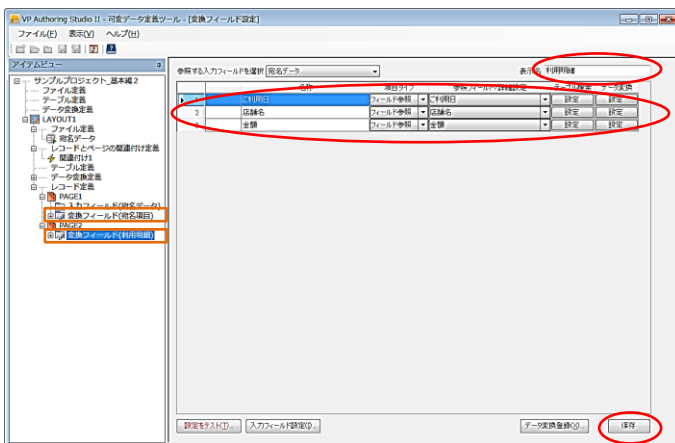
(a)追加されたページの「入力フィールド」の追加

前述(2.)のサンプルの要領で、追加されたページに印字する表データの「入力フィールド」項目を追加します。



(b)追加されたページの「変換フィールド」の追加

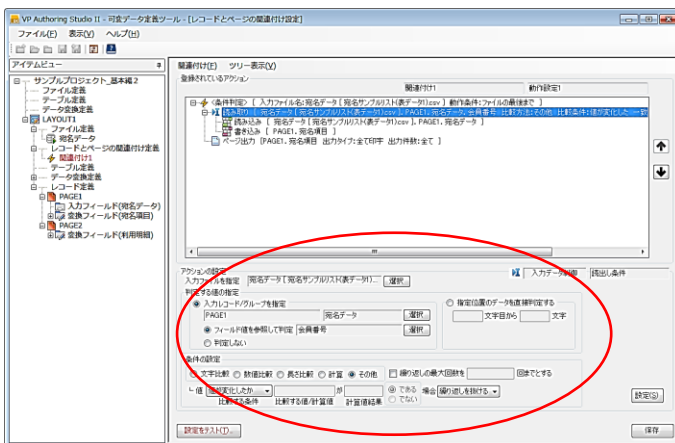
前述(2.)のサンプルの要領で、追加されたページに印字する表データの「変換フィールド」項目を追加します。また宛名ページの変換フィールドも併せて、任意の名前に変更しておきます。



(c)「関連付け」動作の変更

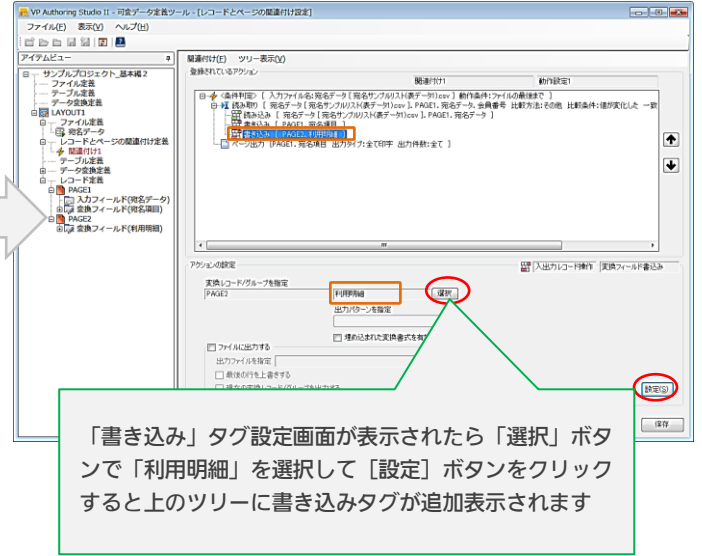
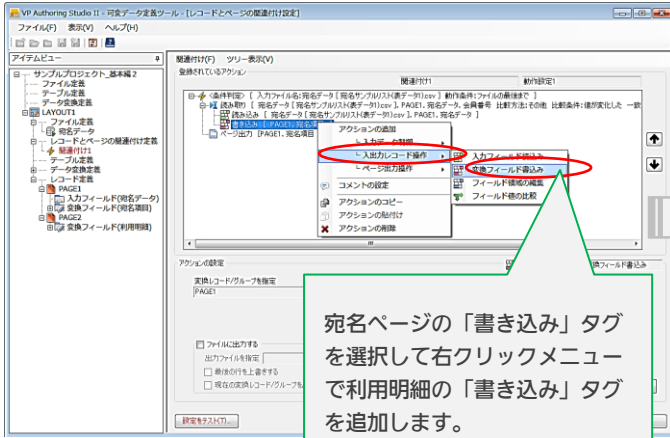
次に「関連付け」動作の変更を行います。前述(2.)のサンプルと同様に繰り返し条件を設定しますが、今回のサンプルでは複数のページ出力を行う動作に設定します。

まず、前述(2.)のサンプルに沿って以下のような宛名ページまでを出力する動作設定に変更します。

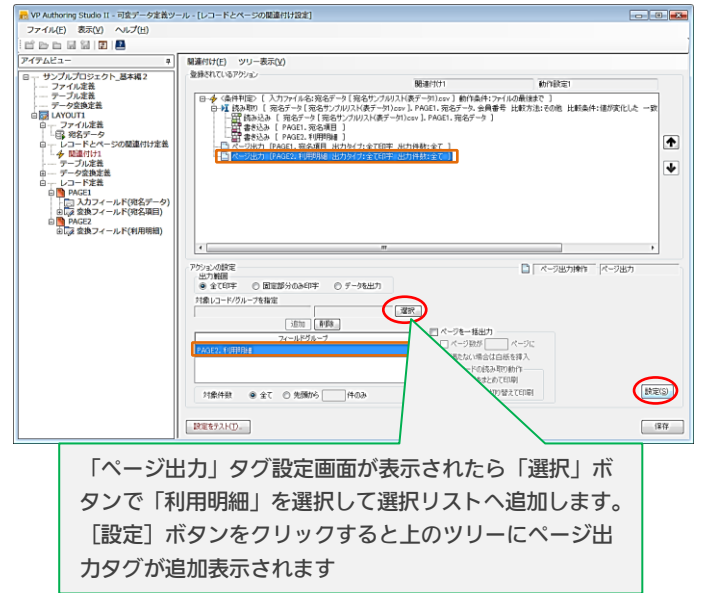
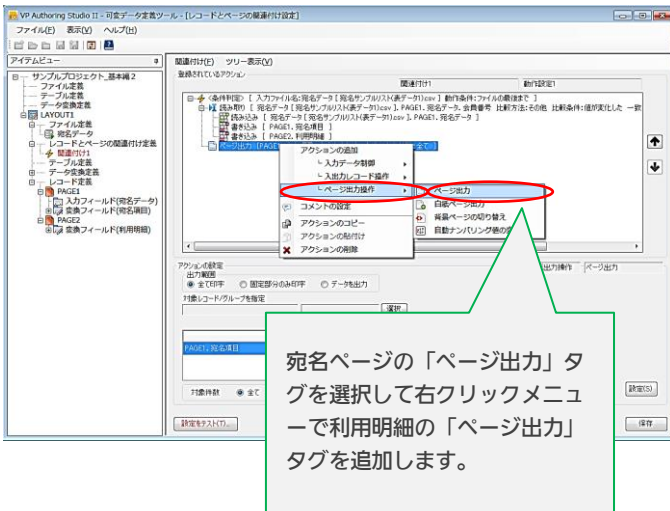


次に、追加されたページの「書き込み」タグの追加、および「ページ出力」タグの追加を行います。

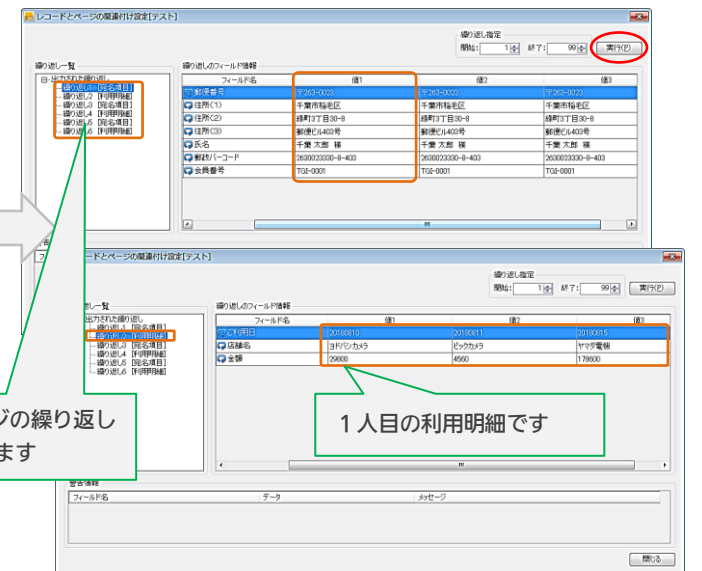
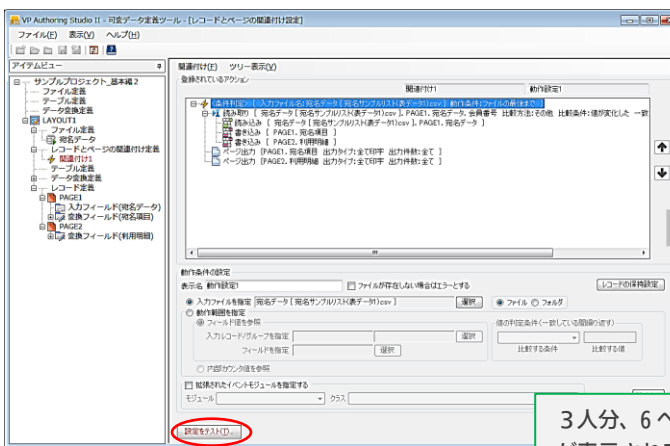
「書き込み」タグの追加設定



「ページ出力」タグの追加設定

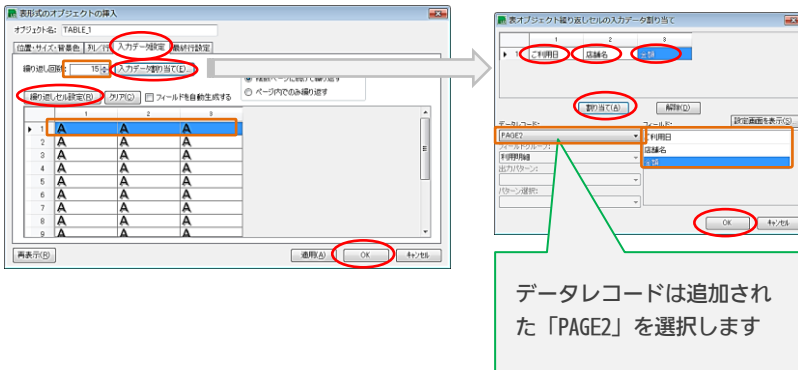


設定が終了したら「保存」ボタンをクリックし「設定をテスト」で繰り返し条件通りに入力データが処理されるかを確認します。



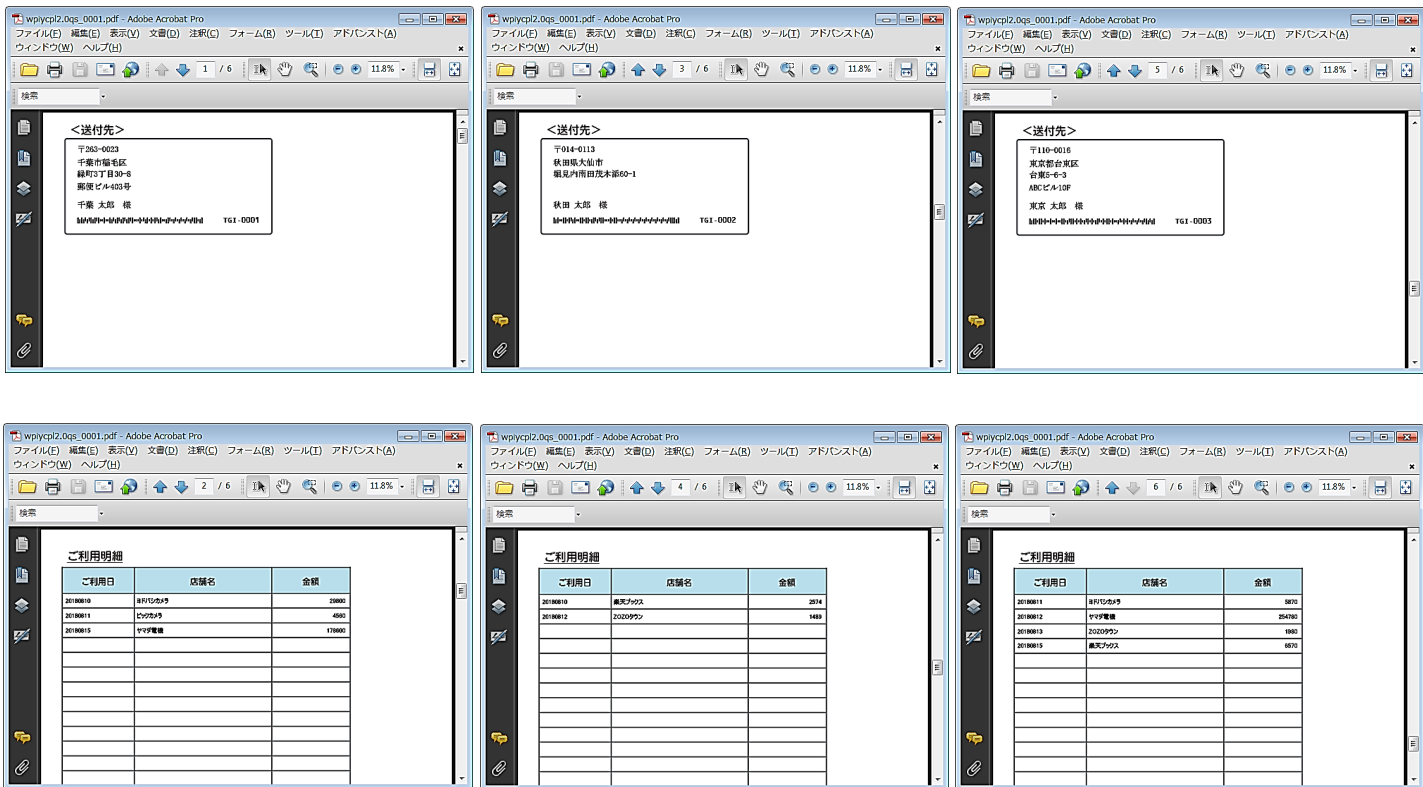
(d) 「表」 オブジェクトへの可変データ割り当て

「可変データ定義ツール」での設定追加が終了したら、これらの項目をレイアウトへ追加された「表」オブジェクトに割り当てます。設定方法は前述 (2.) のサンプルと同様です。



(e) 印刷プレビューでの確認

全ての設定が終了したら印刷プレビューで内容を確認してください。以下のように3人分、6ページの印字結果になります。

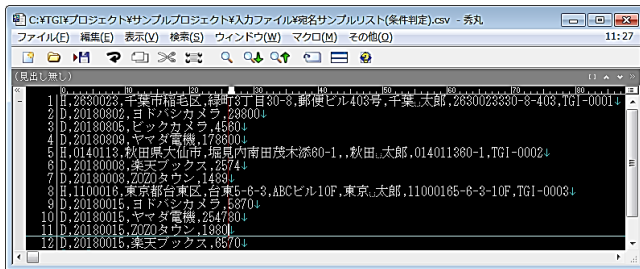


4. 条件判定でのページ切替

VPAS2 では、入力データを判定して複数のページを切り替えて出力することが可能です。また、区分ごとに異なるレコード書式も読み取ることができます。ここでは、前述 (3.) のサンプルを改良して入力データの区分を判定しながら宛名と利用明細を 2 頁に出力する方法を説明します。

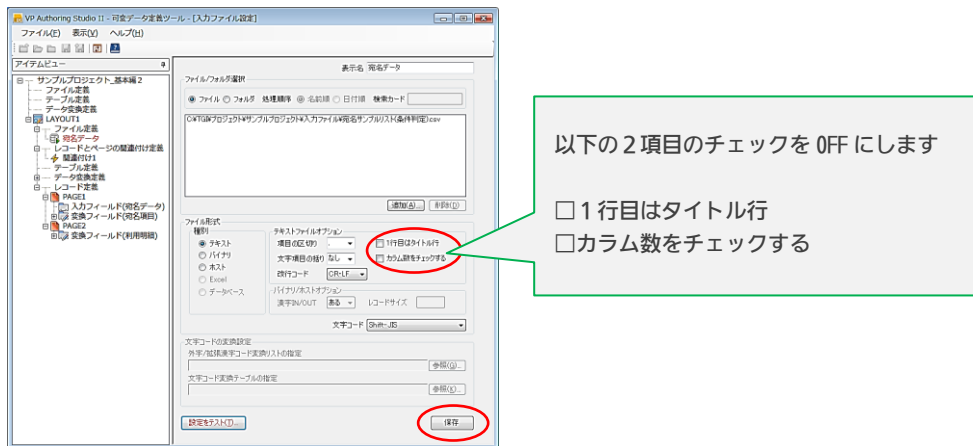
<入力ファイル>

以下のファイルを「ファイル定義」の入力ファイルとして設定しておきます。先頭カラムにデータ区分があり H=宛名、D=利用明細になります。カラムの項目数はデータ区分により異なります。またヘッダ情報はありません。



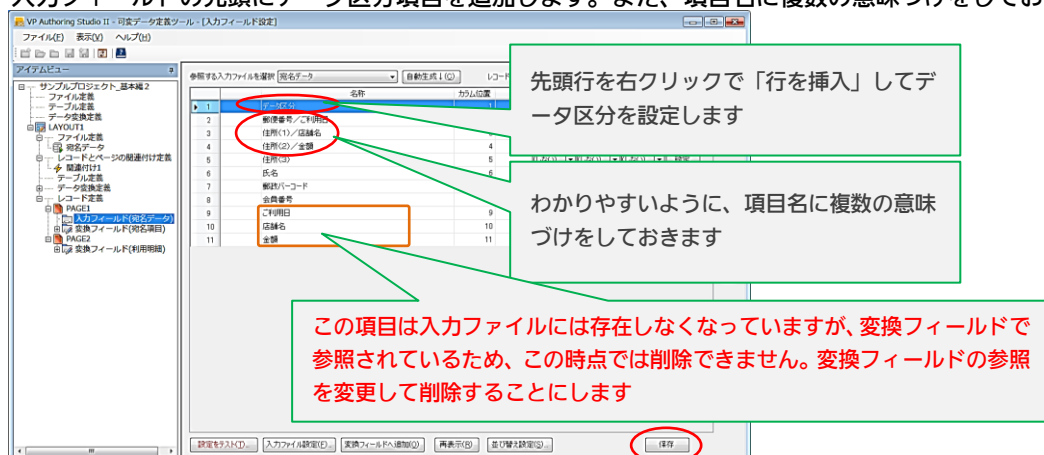
●入力ファイル定義の変更

入力ファイル定義の設定を「ヘッダがない」設定に切り替えます。また、データ区分によりカラム数が異なりますのでカラム数チェックを OFF にします



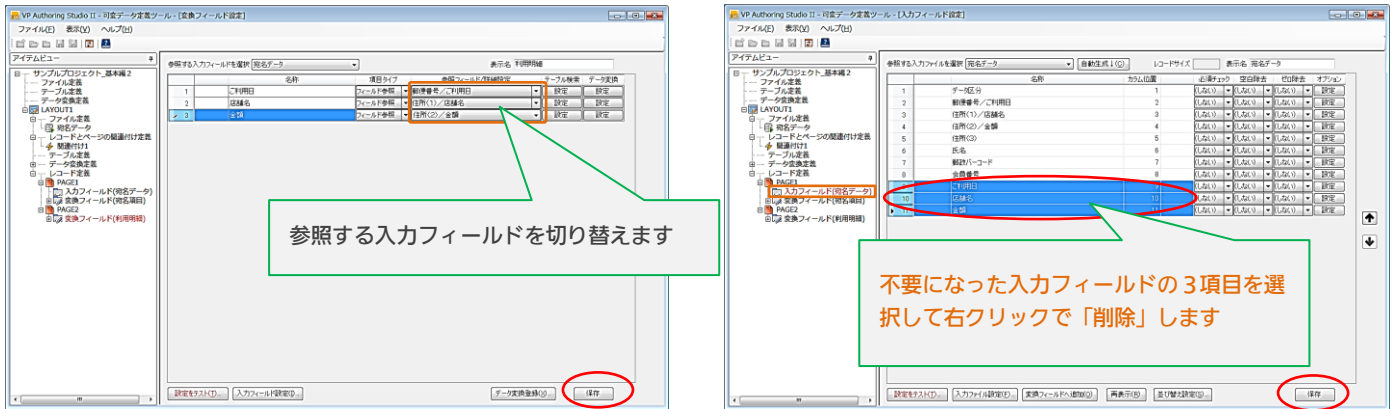
●入力フィールドの変更

入力フィールドの先頭にデータ区分項目を追加します。また、項目名に複数の意味づけをしておきます。



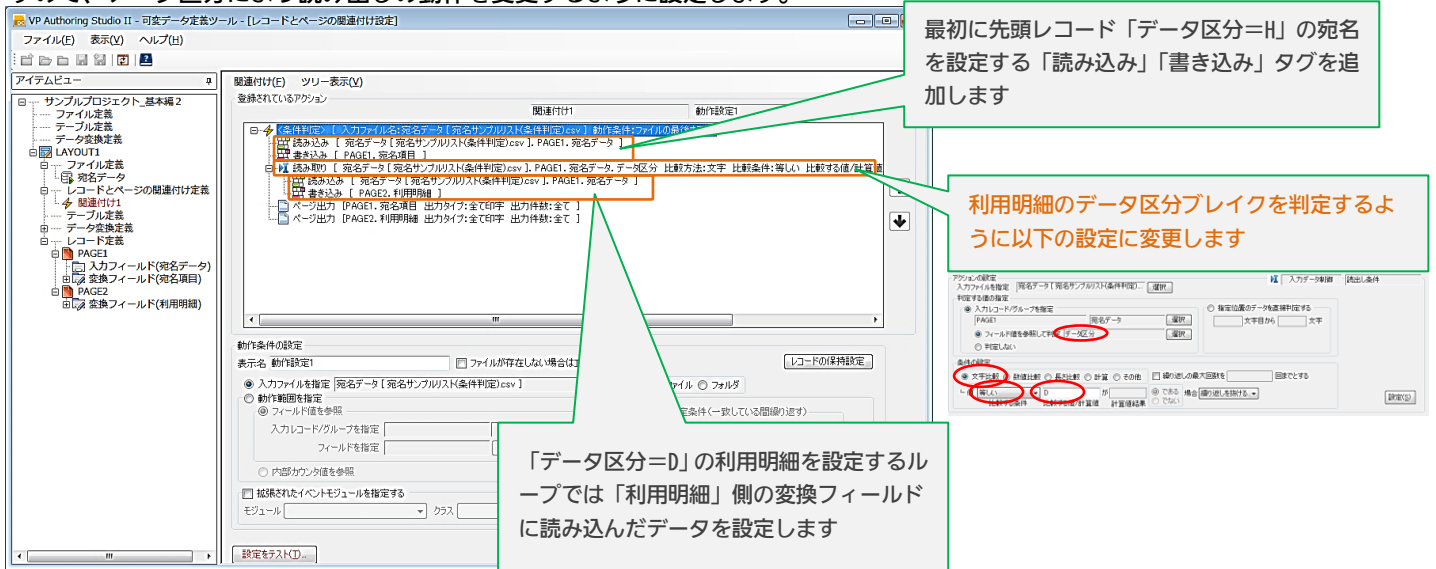
●変換フィールドの変更

「利用明細」の変換フィールドの参照項目を以下のように変更します。また設定変更後に「入力フィールド」の不要な項目を削除します。



●関連付け動作の変更

関連付け動作の設定を以下のように変更します。この入力ファイルでは宛名レコードと明細レコードがデータ区分で分かれていますので、データ区分により読み出しの動作を変更するように設定します。



●印刷プレビューでの確認

全ての設定変更が終了したら印刷プレビューで内容を確認してください。出力結果は、前述 (3.) と同じになります。